

No. 3

○推薦入学者及び一般入学者の間にみる高等学校の教科・科目の学習達成度ならびに学習達成の保持度の差異に関する事例研究 池田輝政 1982年3月

大学入学者に対する選抜方法の中で推薦に基づく選抜と試験に基づく選抜の2つに着目して、それら選抜方法の特徴や問題点を高等学校の教育と関連づけて明らかにするよう試みた。このため、推薦に基づく選抜を推薦入学方式、そして試験に基づく選抜を一般入学方式として、各々の入学方式に応じて、国語・数学Ⅰ・英語Bの3教科目の基本的な学習達成がそれらに対応する入学者集団の間にどのように差異をもたらすかという点について、事例的な調査研究を実施した。調査の実施期日は1981年2月3日であり、これは「実験的学力調査」の名において共同研究の一環として実施したものである。被験者はZ大学の1年次在籍者から抽出して得られたもので、その規模は118名である。かなり小規模な資料であるため、集団属性に関しての分析は専ら文科系及び理科系の2つのレベルにとどめた。

分析を進める上で使用した情報は基本的な学習達成の変化であるが、これ

は入試時点における達成度と、その約1年後における保持度という2つの指標に区分した。この場合、達成度の指標は1980年度共通1次本試験の成績でもって測定し、保持度の指標は調査を通して得た1981年共通1次追試験問題の解答結果でもって測定した。

分析の結果についての概略は以下のように述べることができる。国語に関しては、両入学者集団の間で入試時点の達成度に差異がみられたが、しかしその約1年後にみた保持度においては差異が同じようには現われなかった。次に数学Ⅰについては、達成度についても保持度についても両集団の間に差異がみられなかった。最後の英語Bの場合について述べると、最も特徴的であるのは、文科系の両集団の間において達成度と同様に保持度についても差異がみられた点である。教科目の学習達成に関しては、入学方式の違いによる影響が生じにくいものと生じやすいものに分けられるのではないかというのが分析結果の感想である。